＊題名中に書名が出現する場合は、引用符〝〟で囲みイタリック体を使用しない。

六　投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七　著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は字句の訂正に留め、組版面積に影響を与えるような改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責了とみなす。

八　刷り上り五印刷ページ（四〇〇字詰原稿用紙で一二枚）までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九　論文別刷は五〇部単位とし実費で作製する。別刷希望者は校正刷第一頁の上方に部数を朱書すること。

一〇　原稿の送り先

〒一一三　東京都文京区本郷二丁目一―一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

編集後記

日本医史学の父ともいうべき富士川游博士没後五十年記念会の全貌をおとどけすることができ、編集委員の一人としてひそかな喜びを感じています。

遠隔のため、あるいはお仕事の都合で当日ご参加のかなわなかった会員の方々には、それぞれの演者の含蓄にとんだ内容を、じっくりあじわっていただけたらと思います。当日幸にして参加された方々も、この日の雰囲気を感じながらもう一度熟読されて、今後のすすむべき道のよすがにされることを願っております。

記念会でも岡田、長門谷両氏がふれておられましたが、これだけの数をほこるわが国の医学関係大学に、ひとりの医史学教授も存在しないという現状を、何とみたらよいでしょう。これをどのように改善していったらよいのか、いよいよ現実的な方策を考えるべき時期をむかえたのではないでしょうか。

本号にはアントワープで開催された国際医史学会をはじめ、各地でおこなわれた記念会、顕彰会、シンポジウムなどの報告が、数おおくみられます。学会誌として原著や研究ノートなどの学術論文を掲載するのはもちろんですが、近年このような記録性をかねそなえた編集方針をもつことに、本誌の新しい傾向をよみとっていただければ幸です。後者については編集委員会も鋭意力をつくしているところですが、どうにもならないのは原著論文などです。

おおくの会員の方々のご投稿を心まちにしております。

（深瀬　泰旦）